

## Ⅱ 事業の概要（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

平成28年度の事業実施に当っては、市場の金利低下によって基金の利息収入確保が厳しくなっていることから、健全な運営のための収支均衡や公益法人としての収支相償に配慮しつつ、債券売却を行い公益事業の安定的な継続に努めるよう取り組んだ。

漁業振興公害対策事業では、県内各地の6次産業化への取組や浜の再生プラン等の県内沿岸漁業の積極的な振興策への支援を行うよう努めた。

栽培漁業推進事業では、水産資源の維持増大のため、種苗受入尾数等の事業規模の維持に努めるとともに、種苗生産機関、漁業者団体、行政機関等との連携を図った。

基金運用においては、将来的に財源不足が心配される栽培基金の運用益の確保のため、売却益が確実に得られる長期（償還期間10年）の債券を売却し運用を行った。なお、この売却処理により今後、保有する全ての債券が、「満期保有目的債券並びに子会社及び関連会社株式以外の有価証券」となった。

## 1 漁業振興公害対策事業

漁業振興基金基本財産運用収入によって、事業費（助成額）16,224 千円で、沿岸漁業振興に係る次の事業を実施した。

### 実施事業一覧

事業名	地域振興事業	広域振興事業
1 漁業振興対策事業  (14,744 千円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 種苗放流事業</li> <li>・ 漁業施設整備事業 伊豆漁協等 9 件 (13,924 千円)</li> <li>・ 漁港関連整備事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重要魚種増殖対策事業 県桜えび組合 (300 千円)</li> <li>・ 磯焼け対策事業 磯焼け対策協 (200 千円)</li> <li>・ 漁業開発調査指導事業 県漁連 (320 千円)</li> <li>・ 種苗放流事業</li> </ul>
2 漁業公害対策事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁場監視対策事業</li> <li>・ 公害対策関連事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公害対策等</li> </ul>
3 漁業環境保全対策事業  (50 千円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海底清掃事業</li> <li>・ 障害物除去事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広域的海岸・海中清掃事業 浜名湖をきれいにする会 (50 千円)</li> <li>・ 地先漁場保全対策事業</li> </ul>
4 教育広報事業  (1,430 千円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者等育成事業 県漁連 (1,180 千円)</li> <li>・ 広報事業 県漁連 (250 千円)</li> </ul>
合計 16,224 千円	13,924 千円	2,300 千円

## 2 栽培漁業推進事業

第7次基本計画に基づき、栽培漁業基金基本財産運用収入、県補助金、漁業者及び市・町の負担金等を財源とした当初事業予算 56,058 千円で、指定法人が行なう「放流効果実証事業」としてマダイ・ヒラメの中間育成・放流事業を、振興基金が自主的に行う「地域放流効果普及事業」としてクルマエビの中間育成・放流事業を行った。

放流効果実証事業のうちマダイ放流事業は、伊豆、中部、榛南の3地域でそれぞれ地域栽培漁業推進協議会を設置し、資源増大推進普及事業（補助金事業）及び地域栽培推進事業（負担金事業）として実施した。二つの予算事業は一体的に実施し、効率的な事業実施に努めた。本年の静岡県温水利用研究センター（本所、沼津分場）のマダイ種苗生産は、両生産施設とも、飼育期間中の減耗により、県全体で計画の約85%の供給となった。減耗の原因については、突発性の活力不良に伴うものや、大小差からくる共食いによるものが考えられた。

放流効果実証事業のうちヒラメ放流事業は、榛南地域においては地域栽培漁業推進協議会を設置し、資源増大推進普及事業（補助金事業）及び地域栽培推進事業（負担金事業）として実施し、沼津地域においては漁業者・市の負担金及び栽培漁業基金基本財産運用収入を財源として漁業振興基金から地元の沼津市漁業協同組合青壮年部連絡協議会へ委託し実施した。本年のヒラメの種苗生産は、計画どおりの種苗が確保され、榛南については中間育成も歩留りも良く、計画放流数を上回る結果となったが、沼津の中間育成はビブリオ病が発生して放流は計画を大きく下回った。

地域放流効果普及事業として行ったクルマエビ放流事業は、浜名漁協からの要望を受け、浜名湖の重要水産物であるクルマエビの放流技術の改善、放流効果の普及を図るために実施した。

なお、平成23年の東日本大震災に関連した浜岡原発の運転停止の影響によって、静岡県温水利用研究センターではそれ以前と同様の温排水等の使用は困難になっているが、国・県・電力事業者等の努力によって温水ボイラーや海水供給ポンプ等の整備・運転等が継続されてきている。平成28年度も県・電力事業者等の努力によって前年度までと同様の種苗生産体制が維持された。

### (1) 放流効果実証事業

#### ア マダイ放流事業

##### (ア) 伊豆地域

伊豆地域では、静岡県温水利用研究センター沼津分場から 25 mmサイズのマダ

イ種苗を90万尾受け入れる計画であったが、温水セ沼津分場で計画を約10万尾下回る種苗供給となったため、静岡県温水センター本所より9万尾の種苗を内浦に受入れた。この結果、伊豆地域全体で当初計画90万尾に対して、89.3万尾となった。本年も昨年と同様に滑走細菌症等の発生があったため中間育成の歩留りが低くなり、伊豆地域の放流尾数は合計310千尾となり、計画の591千尾の52.5%に止まった。

また、沼津市久料幼稚仔保育場において、放流後の減耗防止と定着率向上のための給餌と施設管理及び集魚状況調査を、沼津地区幼稚仔保育場管理運営委員会に委託し実施した。前年と同様に、実施場所を久料沖の幼稚仔保育場の中でも岸寄りの海域とし、地元青壮年部等が設置した粗朶礁による滞留効果が認められた。

#### (イ) 中部地域

中部地域では、静岡県温水利用研究センター本所から当初計画どおり25mmサイズのマダイ種苗20万尾を受入れた。中部地域の放流尾数は合計124千尾となり、計画の131千尾の94.7%となった。

#### (ウ) 榛南地域

榛南地域では、静岡県温水利用研究センター本所から25mmサイズのマダイ種苗50万尾を受入れる計画だったが、種苗生産の不調により27万尾の供給に止まった。沖出し後の荒天等の影響や、種苗の大小差による共食いなどで中間育成の歩留りが目標より低くなり、榛南地域の放流尾数は合計104千尾となり、計画の328千尾の31.7%に止まった。

表 事業別・地域別マダイ中間育成・放流結果一覧

地域別・中間育成・放流結果（資源増大推進普及事業、地域栽培推進事業の合計）

魚種	マダイ						
	伊豆				中部	榛南	合計
対象海域	網代	田子	内浦	計	小川	地頭方	—
中間育成場	網代	田子	内浦	計	小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	398	225	270	893	200	273	1,366
沖出し時全長(mm)	26	30	30	—	27	31	—
放流尾数(千尾)	116.5	89.4	104.5	310.4	123.8	104.2	538.4
放流時体長(mm)	79	65	69	—	66	81	—
実施時期	6～8月						—

事業別・中間育成・放流結果（資源増大推進普及事業）

魚種	マダイ						
	伊豆				中部	榛南	合計
対象海域					小川	地頭方	—
中間育成場	網代	田子	内浦	計	小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	180.5	97.5	165	443	—	123	566
沖出し時全長(mm)	26	30	30	—	—	31	—
放流尾数(千尾)	52.8	38.7	63.9	155.4	—	47.1	202.5
放流時体長(mm)	79	65	69	—	—	69	—
実施時期	6～8月						—

事業別・中間育成・放流結果（地域栽培推進事業）

魚種	マダイ						
	伊豆				中部	榛南	合計
対象海域					小川	地頭方	—
中間育成場	網代	田子	内浦	計	小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	217.5	127.5	105	450	200	150	800
沖出し時全長(mm)	26	30	30	—	27	31	—
放流尾数(千尾)	63.7	50.7	40.6	155	123.8	57.1	335.9
放流時体長(mm)	79	65	69	—	66	81	—
実施時期	6～8月						—

## イ ヒラメ放流事業

### (ア) 榛南地域

榛南地域では、静岡県温水利用研究センター本所から当初計画どおり 30 mmサイズのヒラメ種苗 42 万尾を受入れた。本年は、飼育が順調に行われ、大きな疾病による減耗も無く、榛南地域の放流尾数は合計 318 千尾となり、計画の 280 千尾の 114%になった。

### (イ) 沼津地域

沼津地域では、静岡県温水利用研究センター本所から当初計画どおり 30 mmサイズのヒラメ種苗 6 万尾を受入れた。飼育海水の上昇に伴いビブリオ病による減耗が発生し、大部分の飼育種苗は飼育期間を短縮し放流を実施した。一部の飼育種苗については地元での小学生等の体験放流のため疾病発生後も飼育を継続し 36 日後に放流を行った。これらの結果、中間育成の歩留りが目標よりも低くなり、

沼津地域の放流尾数は合計 10 千尾となり、計画の 40 千尾の 25.4%に止まった。

表 事業別・地域別ヒラメ中間育成・放流結果一覧

地域別事業別・中間育成・放流結果

魚種	ヒラメ				
	榛南			沼津市	合計
対象海域					
事業名	資源増大推 進普及事業	地域栽培 推進事業	計	—	—
中間育成場	温水センター		—	内浦	—
中間育成尾数(千尾)	220	200	420	60	480
受入れ時全長(mm)	34	34	—	30	—
放流尾数(千尾)	158.7	159.6	318.3	10.2	328.5
放流時体長(mm)	62	62	—	57	—
実施時期	4～5月		—	4～5月	—

(2) 地域放流効果普及事業（自主事業）

ア クルマエビ放流事業

浜名湖において、静岡県温水利用研究センター本所から当初計画どおり 15 mm サイズのクルマエビ種苗を、白洲地先に 69 万尾、雄踏地先に 131 万尾受入れ、囲い網による中間育成を行った後に放流した。中間育成の歩留りが目標よりも低くなり、2 地先合計の放流尾数は 571 千尾となり、計画の 800 千尾の 71.4%に止まった。

表 地域放流効果普及事業(クルマエビ)の中間育成・放流結果

魚種	クルマエビ		
	浜名湖		合計
対象海域			
中間育成場	浜名湖(白洲)	浜名湖(雄踏)	—
中間育成尾数(千尾)	690	1,310	2,000
受入れ時全長(mm)	15	15	—
放流尾数(千尾)	57.3	514.0	571.3
放流時体長(mm)	18.2	18.0	—
実施時期	8月(飼育7日)	8月(飼育7日)	—